

令和7年度 第2回清瀬市子ども・子育て会議 議事要旨

日 時 令和7年9月25日(木) 午後6時30分～

場 所 清瀬市しあわせ未来センター セミナールーム

委 員 10名(欠席なし)

事務局 福祉子ども部長、子育て支援課課長補佐、子育て支援課 保育・幼稚園係長、
子ども家庭支援センター長

1. 開会

事務局

委員長選出

資料確認

子ども・子育て会議の委員の定足数を満たしている旨報告

2. 議題

清瀬市子ども・子育て会議(令和7年度第2回)会議次第

1 開会

2 議題

(1) 市内の保育状況について

(2) 市内認可保育園の分園について

(3) こども計画策定状況について

3 その他

【配布資料】

資料1 清瀬市子ども・子育て会議委員名簿

資料2 清瀬市子ども・子育て会議設置条例

資料3 市組織図について

資料4 地域別保育定員について

資料5 保育所等利用待機児童数について

資料6 保育の実施状況について

資料7 こども計画策定状況について

3. 議事要旨

委員長

議題1「市内の保育状況について」を事務局から説明願う。

事務局説明

資料4から資料6を用いて、所管課説明。

委員

第7保育園の代替園で病児保育を行うという話はどうなっているのか。

事務局

第7保育園の代替園事業者選定プロポーザルの要綱案から結果などを皆様に報告してきた内容と変更はない。令和8年度の新園開園時点では病児保育を行わない見込みである。

委員

待機児童となっている方々へのフォローはどのように行っているのか。

事務局

相談に来た方に園の空き情報や希望園の選び方等の助言は個別におこなっているが、アウトリーチのような特別な対応はしていない。

また、保育所の空き定員情報は毎月市のホームページに掲載している。

委員

新定義で19名の待機児童がいるという説明があった。この人数を多くと捉えるか少ないと捉えるかはあるが、その方たちへの対応は、やはり必要だと考える。

委員

希望園は自宅からの近さや通勤途中などにこだわっていることが多い。

委員

ホームページでの周知だけではなく、個別にアドバイスするなど、市として子育て世帯を応援しているという姿勢を示すことも重要かと考える。

委員長

議題2「市内認可保育園の分園について」を事務局から説明願う。

事務局説明

資料5及び資料6を用いて、所管課説明。

委員

待機児童（新定義）となっている19名は資料4でいうどのエリアに分布しているか。

事務局

個人情報になるため本日資料を持ち合わせていないが駅に近いところで集中している。

委員

東京全体で待機児童数は一旦300人をきったが昨年以降また増えている。新たに認

可保育所も出来て定員は増えているが、空きも増えている。偏りがあり、不承諾通知欲しさの人もいる中で、本当に保育所に入りたい方のニーズが見えにくくなっている。待機児童となった方に丁寧に対応していくことが求められてくるかもしれない。

委員

全国的に見ても地域（市区町村レベル）で空いているところと埋まっているところの凹凸ができています。市の施策としてどうアプローチしていくかが大事だと思う。待機児童となった方に寄り添っていくのも一つだし、現実的ではないが町田市のようにバスを走らせて空いている保育所を埋めていくといったことも考えることはできるのでないか。

委員

清瀬市は広くないので子ども子育て支援事業計画は教育・保育提供区域を一区域としている。

委員長

待機児童（新定義）の分布も踏まえたうえで定員をどのように考えていくか、また、保育所に入れなかった方をどうフォローしていくのかまで子ども・子育て会議で議論できるといいのかなと思っている。

委員

これだけ空き定員が増えている一方、待機児童も解消するとなると、公立保育園を減らしていく流れについて一旦ストップした方がいいのではないかと子ども子育て会議から提言することも有効かもしれない。また、教育・保育提供区域の一つで本当によかったのか再度検証することも子ども・子育て会議に求められているかもしれない。この会議では個別案件というよりも受け皿をどうすべきかを議論していくべきであると考えます。

事務局

本日の意見を参考にしつつ進めていきたい。

委員長

この件について、決定権が清瀬市子ども・子育て会議にはないので、意見を付すといった形になると思う。本日の意見を踏まえて検討をすすめていただきたい。

委員長

議題3「こども計画策定状況について」を事務局から説明願う。

事務局

資料7を用いて、所管課説明。

委員

長期総合計画とマスタープランとの整合性ということで、保育所の定員とか保育施設をどうするのかという話が出てきているが、今は放課後健全育成事業がとても話題になっている。小学1年生ということで、入れない人たちも多くある中、行政は一生懸命定員をふやしてくれているが、その子供のすべての子供たちの幸せを図るってことをマスタープランで、子供の健全育成とうたわれて、計画の中には、放課後、健全育成事業っていうものもある。

数値の見込みも出たと思うが、この子ども子育て会議の議題に上がらないのがとても疑問である。

事務局

保育・幼稚園の担当からすると、学童保育と言っても、保育園とは違い日中過ごしている学校の近くの学童に行きたいという気持ちは当然あると考えている。そのため偏りというのは絶対に出てくるものと考えている。

委員長

他に意見がなければでは令和7年度第2回清瀬市子ども・子育て会議を閉会する。

(了)